

空と遊び心の家

八代研究室
00312064 本田裕樹

1. はじめに

本設計は、『空』『遊び心』の二つをテーマに埼玉県さいたま市見沼区に実在する敷地に、10年後の自邸を設計する事を目的とする。

2. 敷地

本敷地はJR大宮駅よりバスで10分程度の郊外にある住宅地で、近くの主要道路に高速道路が伸びてくるなど都市化が進んでいる地域である。南北に長く東西南の3方向を隣家に囲まれているため、北側からのアプローチとなる(図1)。

用途地域：第一種住居専用地域

敷地面積：291.36 m² (87.96 坪)

建ぺい率：50%

容積率：100%

3. 設計趣旨

現在の住宅街は、かつてはたくさん溢れていた木々などの自然は年々失われ、高層マンションやビルが増え、住宅は隙間なく建てられ窓からの眺めはどちらを見ても建物ばかりである。それでも上を見上げれば、そこには今も昔も変わらない空がある。そこで室内を一つ目のテーマである空へ、より近づけることで、今では少なくなってしまった自然を、感じられる住宅を目指した。

その上で、子供の頃に憧れた忍者屋敷のイメージを二つ目のテーマとし。図2の空間構成図のように動線が行き詰まらないよう回遊性を持たせることにより、空間を移動することで楽しみを感じられるような住宅とした。

4. 設計条件

構造：RC造

1階：115.93 m² (35.00 坪) 建ぺい率 40% < 50%

2階：61.38 m² (18.53 坪)

延床面積：177.31 m² (53.53 坪) 容積率 61% < 100%

家族構成：夫婦+子供2人 (4人家族)

5. 空間構成

3640mm×3640mmのグリッドを9個組み合わせた形を基本とした(図3)。1階中央の北から南への3部屋を繋げて大きな一部屋とし、南側2グリッドの上を吹き抜けにした。さらに家の中心の天井には大きなトップライトを設けキッチンダイニングを開放的な空間としている。南側の窓を大きくとり採光を多くしている(図6)。夫婦室は1階と2階を吹き抜けて繋ぎ、そこに階段を設け一つの連続空間とし、その吹き抜けを通して空を望むことができる(図7)。

2階の夫婦寝室からは南側廊下へとでられ、そのままバルコニー、屋上へと出られるように配慮した。

ダイニングキッチンから見上げると宙に浮いているように見える子供室へは庭側の階段を上がり、空を眺めながら、ダイニングキッチンを見下ろし渡り廊下を歩いていく(図4)。子供室にはトップライトはないが棚を登るとクローゼットにある隠し扉からロフトに上がることができる(図5)。ロフトからは開閉式のトップライトから屋上に上ることができる(図7)。

6. まとめ

自分の十年後を想定して、空と遊びをテーマに立体的な回遊性のある、住宅を提案した。

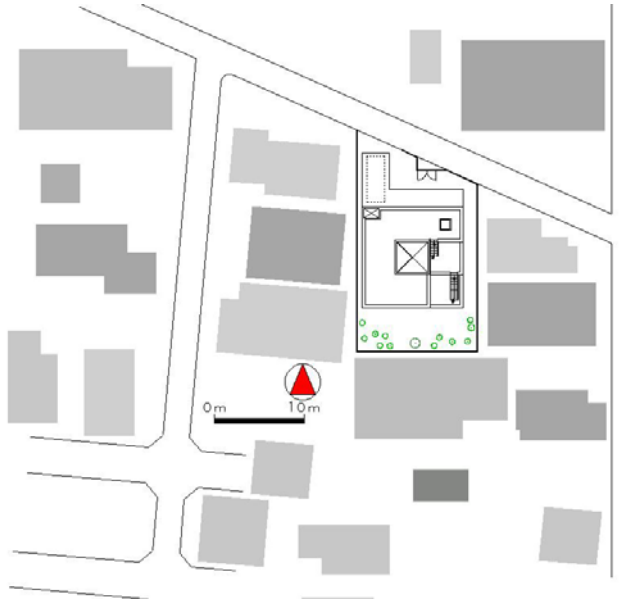


図 1

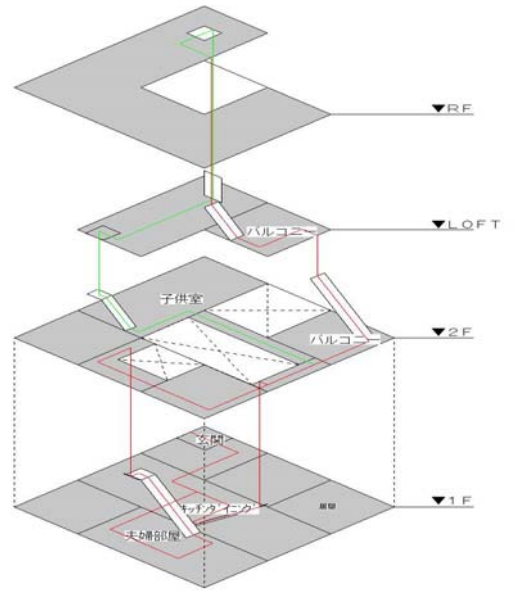


図 2



図 3

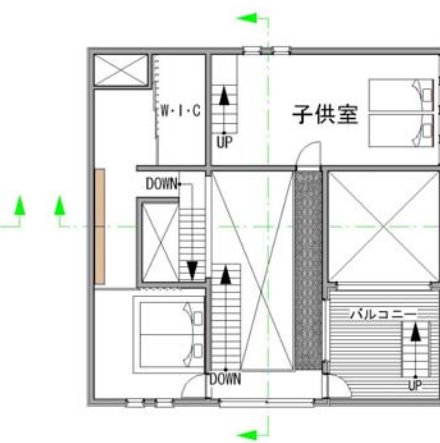


図 4

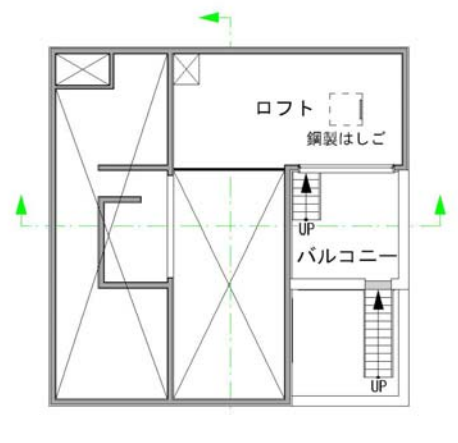


図 5

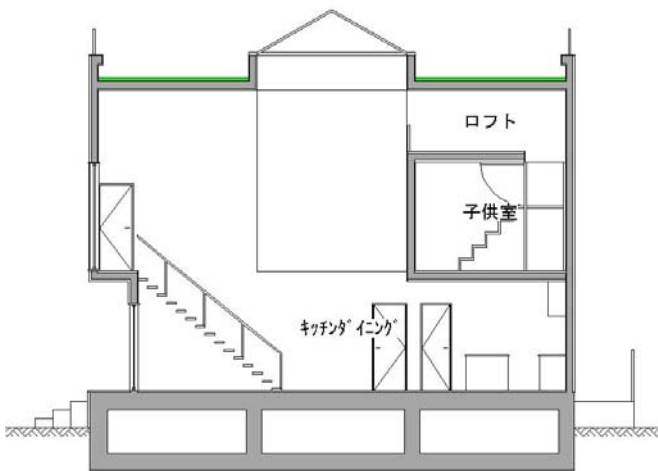


図 6

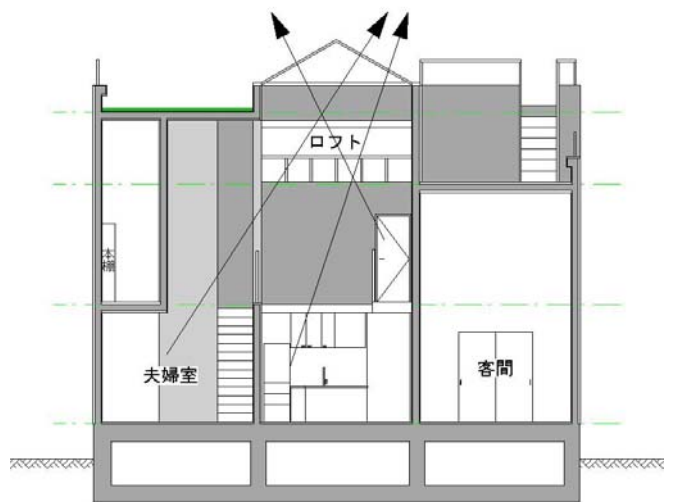


図 7